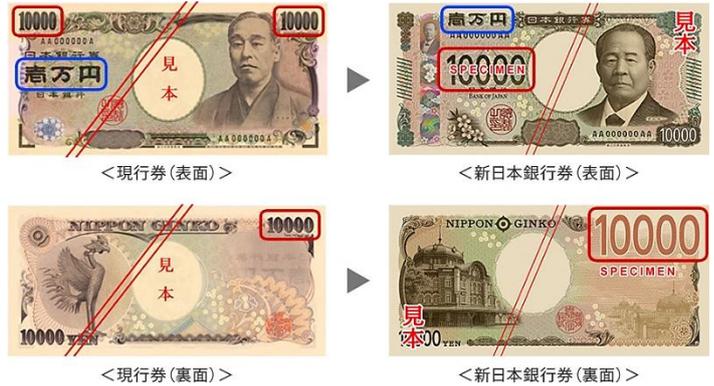


はじめに

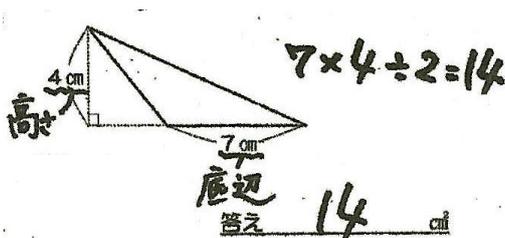
2024年7月よりお札が変わるとニュース。福沢諭吉から渋沢栄一に変わるだけでなく、額面数字が大型化され、ユニバーサルデザインを導入。つまり、年齢や国籍を問わず多くの人になじみのあるアラビア数字による料額表示を、現行の日本銀行券よりも大きくするそうです。

※「国立印刷局『新しい日本銀行券特設サイト』新しい一万円札について」より図柄を転写



ある教師が授業後に「大きな数を漢数字で書くのは難しい！」とぼそり。しかし、例えば億の位でも一、十、百、千が現れることを知ることで、億の上の兆の位でも同じ繰り返しあることを類推的に考えることができます。今までに知っていることをモデルとして新しい場面に当てはめて推論していくことによって類推的な見方・考え方を育てるよさがあります。

実際に調査では、4年生⑨(2)「1億-1000万=9000万」の正答率は73.0%で、令和3年より+7.1%の結果。誤答「9999万」をぜひ紹介して、漢数字の表記の大切さとともに、単位の考えの学び直しの機会としてもらいたいです。



また、図形では、5年生⑩(2)「三角形の面積」(左図)で、正答率は76.4%で、令和4年から-12.6%の結果。なぜダウンしたのか分析が必要です。(底辺) × (高さ) の公式を覚えるだけでは対応できませんね。その証拠に、今年度の学力調査問②(4)では、全国の正答率は21.1%でした。みなさんの学校の6年生はいかがでしたでしょうか。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。

上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

私は放送集会で全校にこの問題を紹介しました。もちろん1年生は計算できませんが、「同じ大きさ!」「え? 違うんじゃない?」と画面にかぶりつき。実際に誤答例として『4』を選択が16.8%。「高さが書かれていないので、このままでは面積を求めることができないから」と回答。まず、具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導することが重要です。しかし、実際には、簡単に正答率が上がるものではありません。

では、どうすればよいのでしょうか。ヒントは若手教師から「算数の板書は必要ですか?」と私と議論をしたことにありそうです。電子黒板の活用や来年度以降の教科書のQRコードからの動画等で、図形の変化や条件変えなど実際に個々が試すことが大切であると感じました。

最後になりましたが、御協力いただいた児童生徒・先生、授業改善委員の先生方に心より感謝申し上げます。そして、本調査が教師の授業改善、学力向上につながることを切に願います。